

名古屋学院大学同窓会会報

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION NEWS

創刊号('90.10)

名古屋学院大学同窓会事務局発行
愛知県瀬戸市上品野町1350
TEL0561-42-0350(内線201)

会長 岸 邦治郎



『大学同窓会会報』の創刊によせて

秋冷のころ、大学の卒業生の皆様には、ますますご健勝のことと拝察いたします。平素は、大学同窓会の運営と母校の発展のため格別のご配慮、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

(大学同窓会の活動開始)

さて、大学同窓会では、皆様から、卒業生・恩師の方々の近況、大学の動向などを知らせてほしいとの要望にお応えするために、『名古屋学院大学同窓会会報』創刊号を発行することになりました。これまでは敬愛同窓会誌「敬愛」で大学関連の情報を一部お知らせしてきましたが、今後は、大学同窓会が独自に会報を発行し、大学の細部にわたる情報提供を行う運びとなりました。

この同窓会報は、同窓生皆さんの結束を高め、本学同窓会の発展を計る上で欠くことのできないものです。発行に際し、快く寄稿してくださいました西村嵩夫学長はじめ諸先生方、会員の皆様、また編集にご尽力いただいた役

員の方に心よりお礼申し上げます。

大学同窓会は、諸般の事情によりまして今日まで満足な活動はできませんでしたが、昨年の開学二十五周年記念事業や外国語学部開設、卒業生総数一七、七九二名を機に、多くの学内外関係者より、①大学同窓会の活性化、②卒業生の動向把握、③大学当局との連携等の要望や意見が寄せられましたので、役員会で今年から着手しなければならぬ項目を決定させていただきました。つまり、①同窓会室の設置(一九九〇年四月一日開設)、②役員会構成の見直し、③規程の整備改正、④大学同窓会名簿の整備、⑤ホームカミングデーの企画、⑥運営財源の確保(年会費は一口二千円)などです。いずれも重要課題でありますので、役員一同一丸となつて取り組む決意です。

(大学の発展)

一九六四年(昭和三十九年)キリスト教主義大学として開学した母校・名古屋学院大学は、今年開学二十六周年を迎えました。この間多くの苦難を乗り越え、当初の一学部二学科(経済学部経済学科)から二学部四学科(経済学部経済学科・商学科、外国語学部英米語学科・中国語学科)に増設され、さらに総合

大学へと計画が着々と進んでおります。教育内容の充実や施設の拡充も進められ、見違えるほど学内の整備も進んでおります。また、留学生別科の設置により多くの留学生(八ヶ国三〇数名)が日本研究を開始し、女子学生も増え、学内は一段と活気をおびています。ここまで母校を成長させていただきました学長はじめ教職員の皆様の日夜に渡るご努力に感謝申し上げる次第です。

近い将来、私立大学は進学人口の減少によって冬の時代を迎えるといわれています。母校もこの時代を避けて通ることはできませんが、大学同窓会が独自性をもって一層の団結を強め、大学当局と協力して、ますます母校名古屋学院大学の発展に努力しようではありませんか。

なお、ながらく大学同窓会の運営についてご報告する機会がなかったことを、この機会に紙面を借りてお詫びいたします。今後は、本会報を定期的に発行させていただきます。年会費につきましては、皆様にご負担をおかけいたしますが、会の円滑な運営のために何卒、ご理解をいただき、同窓会の運営と母校の発展にご支援をお願いいたします。

古巣大学同窓会 挨拶

理事長 横井 弘美



同窓会の会報が発刊されることは、いきましました。現在のキャンパス風景は内容の整った大学ではつとに多くある様変わりしています。教室群の白壁はことで、いつかその機会がくることをもちろん綺麗になっていきますし、外国望んでいました。例年夏から初秋にかけてもたれている地方での大学主催父母懇談会で、折々同じ会場で他大学のそれとかち合うことがあります。他大学ではおおむね大学同窓会が主催するなど大学同窓会がかなり積極的にかかわっているようです。本学は、卒業生の多くの方々が記憶されているように、大学としての長い足跡みがありましたが、大学同窓会会報が創刊されたことは、本学が漸く今年あたりから他大学との競争場裡に参入できたことの証左として、私はとても嬉しく思っています。

（大学同窓会会報の経緯）

1977年から翌78年頃、当時学長室は現在の第1研究館（「大学論集」の受け渡しをしていた建物）の2階麦粒苑側の端にありましたから、執務の合間によく麦粒苑と教室群の風景を眺めていました。教室群の白壁はカビで黒く汚なくなっていましたから、雨のそぼ降る日などは廃墟のようで、「貧すれば鈍する」の思いに涙ぐんだことがいく度あります。そのようなキャンパス風景から数千人の同窓生が巣立つ

いまきました。現在のキャンパス風景は様変わりしています。教室群の白壁はもちろん綺麗になっていきますし、外国語学部の開設に合わせて赤煉瓦色のタイル張りの新しい建物が棟建設されましたし、現在第2学生食堂が建設中です。加えて多くの女子学生と外国人教員、留学生が加わって、キャンパスが明るくカラフルになってきています。いろいろな努力が重ねられて、大学の財務状況は他大学並みに復したと考えています。そしてこれから、大学進学者数の激減する「私学冬の時代」を迎えうつこととなります。

このようなときに、同窓生の大部分の方が「糸の切れた風」のようになっ

てはいけません。「糸の切れた風」のような現況はとり急ぎ改善されなければなりません。会報創刊が良い契機になればと祈念いたします。

同窓会室のご案内

大学当局のご厚意により、第2研究館1階に同窓会室を開設いたしました。すでに来訪者の接待、大学同窓会会員名簿の整備、同窓会の運営に必要な仕事を精力的に行っています。

大学にお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

連絡先

住所 愛知県瀬戸市上品野町1-350
電話 〇五六一―四二―〇三五〇

（内線二〇二）

開室時間 9時半～16時

（土・日・祭は除く）

事務局長 加藤寿江麻さん
専任事務職員 牧野ひろみさん
にお世話いただいております。





外国語学部開設!! 躍動するキャンパス

平成元年四月より外国語学部（英米）が開設され、以来、また外国語学部設置に伴な
 語学科・入学定員一五〇名、中国語学科の開設により新たに三十余名の先生方が就任され、
 科・入学定員五〇名）が設置され、昭和三十三年四月、経済学部の単科大学として開学以来、
 和三十九年四月、経済学部の単科大学として開学以来、念願であった複学部体制がようやく実現するに至った。
 外国語学部の新設により特筆すべきことは女子学生が増えたことであり、今年も外国語学部入学者の半数以上が女子学生となっており、学内の雰囲気も一段と明るく華やいだものとなっている。
 外国語学部の目標としているのは、ただ単に、英語・中国語等の語学のエキスパートを育成するだけでなく、語学を手段として、幅広い教養、国際感覚を身につけ、国際舞台で活躍できる人材の育成を旨としている。また新学部の発足にあたり、大学をより社会に開かれたものにしよとの理念により、社会人入試、帰国子女入試、外国人留学生入試等も行ない積極的に受入れる体制も整備されつつある。複学部体制になったことにより更に発展させるため経済学部の改組等も検討され、その実現に向けての準備作業も着実に進行しつつある。

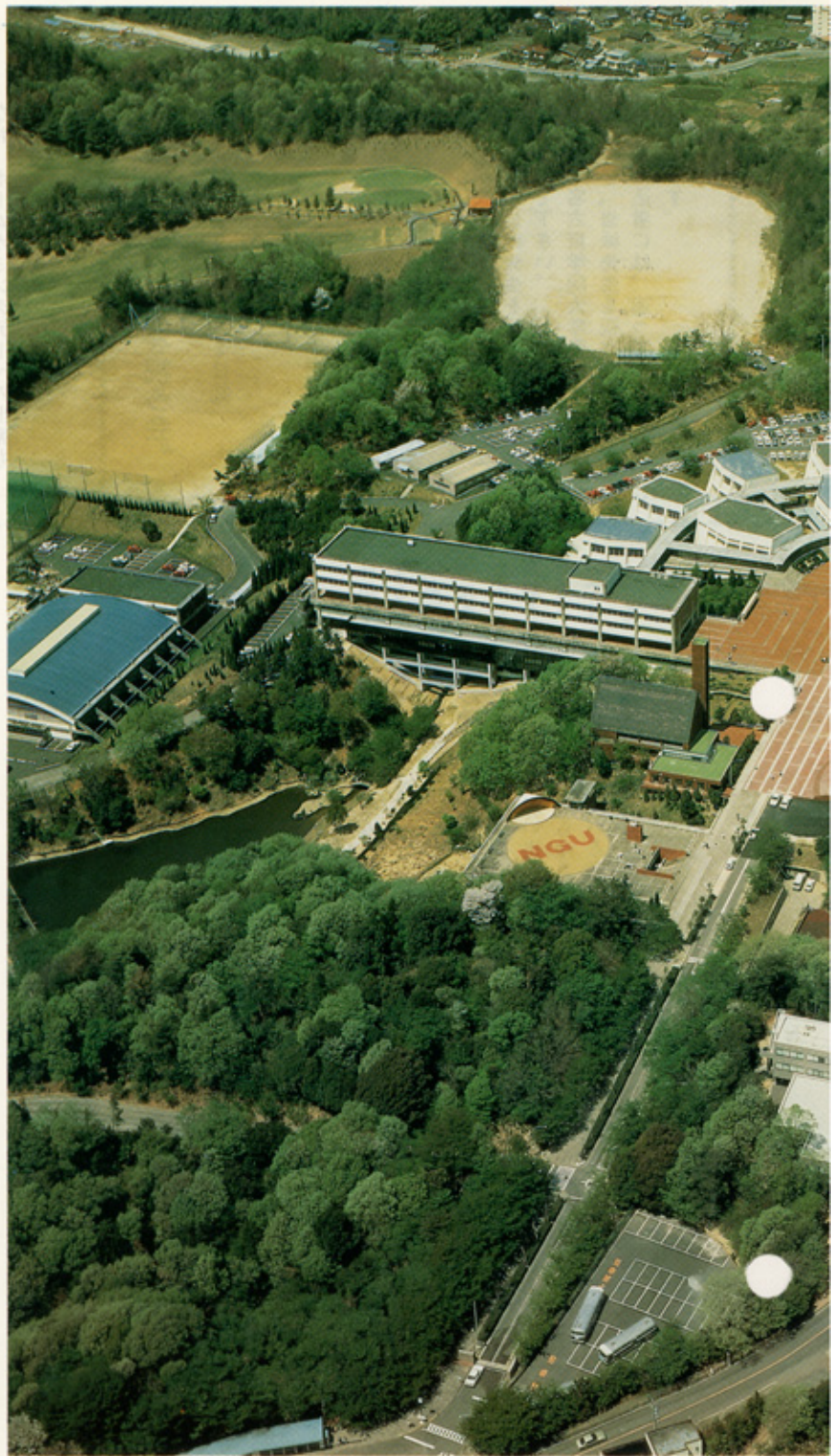
大学事務部長からのメッセージ

大学事務部長 中谷 隆一

NGU同窓生に大学にいるもの（教職員）が直接的に話ができる感覚を実感できるのは嬉しい。さて、大学の近況報告といえば、まず、1989年4月に外国語学部が設置されたこと。教員も大幅に増え、建物も白亜のイメージから緑に映えるレンガのキャンパスに様変わりした。女子学生が毎年1000人単位で増えてきている。NGUは今、新しいイメージを形成しつつある。思えば、経済学部だけの期間があまりにも長すぎたが、大学の歴史が作られてゆくとはこの様なものなのだろう。

「すべてのわざには時がある」といつかの大学同窓会の卒業記念の陶板に記されてあったのを思い出す。新しい摸索を試みながら、今また、商学部の設置が進められつつある。





外国語学部の設置に伴ない施設整備も飛躍的に進んでいる。昭和六十三年には図書館の拡充、外国語学部教員の為の研究棟の建設、更に六合館二階部分の拡充及び従来のL1教室二室に加えCAI・CALL二室の増設、また六合館三階の事務室部分を外国語学部教室として利用するため大改装を行ない、それにもとない希望館(事務棟)を建設するに至った。事務棟一階部分は売店、二階が就職課、学生課、教務課及びキャンパスホールとなっており

キャッシュコーナーも設けられ直接学生と接する窓口部門となっている。三階は総務課、人事課、経理課、管財課、入試課等があり管理部門を集中している。四階は理事長室、学長室等の部屋で構成されている。

留学生の受入れのため留学生の宿泊施設、国際交流会館も建設されている。さらに学生に直接かわりのある施設として第二学生食堂、二階建て約二〇〇〇㎡の建設が平成三年三月完成を目ざして目下工事中であり、また啓明館

の現在の食堂も大改装を行ない従来とは全く違った新しい内容となっており学生も喜んでいる。また女子学生の増加により、女子更衣室も体育館の北側駐車場に建設され、温水シャワー及びロッカー三百個を備えた施設となっている。

また今後の施設拡充等に関しては、キャンパス整備計画委員会が本年度より発足し、総合的なキャンパスの在り方について計画を策定中である。

法人事務局長 笠原英城

チャペル案内 キリスト教センター主事 林 晃

卒業生の皆さんにチャペルと、そこでの活動をご紹介しましょう。開学以来の念願でありましたチャペルは、卒業生の皆さんから多額の献金をいただきお蔭さまで一九八三年秋に完成しました。落着いた雰囲気の中は、九七本のパイプからなるオルガンや、「希望」をテーマにしたステンドグラスがあります。二十五メートルのタワーからは、オランダ製のベルが朝と昼と夕の三回、美しい音色を響かせています。チャペルは、見て楽しみ、聴いて楽しみ、心を豊かに育てるところです。このチャペルで、学生、教職員を対象にした礼拝をはじめ、オルガンコンサートや宗教講演会が開催されています。コンサートや講演会には卒業生の皆さんも参加していただけます。また卒業生に限り、チャペルでの結婚式にも応じています。くわしくは、チャペル内のキリスト教センター(☎〇五六一・四二・〇三四八)へおたずね下さい。



岩城先生叙勲



本学名誉教授・理事の岩城隆利先生が、今年春の叙勲で勲三等瑞宝章を受章されました。先生には、1964年の大学開学時から1981年3月に定年退職されるまでの間、ご担当の歴史学を教授いただいた他、学長代行、学生部長、図書館長などの要職を務められ大学の発展にご尽力をいただきました。

また、定年退職後も理事として学校法人の運営にご協力いただいております。なお、ホームカミングデーへの出席も、ご快諾をいただいております。

「岩城先生の叙勲を祝つ会」

日時 1990年11月4日(日)
18:00~20:00
会場 中日パレス
(名古屋市中区栄・中日ビル内)
会費 ¥10,000
納入方法 10月26日(金)までに同封の会費振込用紙にてお振込み下さい。(年会費と合算して下さい) なお、通信欄の上に岩城先生を祝う会と明記して下さい。

連絡先 名古屋学院大学同窓会室内
「岩城先生を祝う会」
※会費振込者には、追って詳細をご連絡します。



助教授 浅木 督雄

今年の3年生については、以前の報告・質疑応答のタイプにかえて、対話を中心に演習を行っている。その内容も財政学に限ることなく、より幅広く扱うことにしている。時事的諸問題なども取り上げているわけである。

初めてのコンバを合宿で行ったことも今年変わったことのひとつである。5月中旬「浜名荘」で1泊ではあったが、海の幸を味わいながら、ゆっくりと親睦を深めることができた。



教授 梅本 和泰

早いもので本学へ赴任してまもなく20年になります。化学は「資源・エネルギー・環境」をテーマで、ゼミでは多量の資源・エネルギー消費を支えられている産業構造と避けて通れない環境問題について取り組んでいます。ハッカ園では研究材料に約60種のハッカの他に各種ハーブを育種栽培しています。

恩師の近況



助教授 内倉 滋

この春からドイツ語の勉強を、完全にゼロから始めました。考えてみれば全く新たなものに挑戦するということは、学部卒業以来無かったことで、こんなにも新しいものにチャレンジすることが楽しいことだったのかと、改めて感心し、学部入学当時の新鮮な感動をチョッピリ思い出しました。こうした喜びや感動をあらゆる分野について日々感じながら生きている学生諸君のことを、心底羨ましいと思っているこの頃です。



教授 大村 照夫

第一回のゼミ参加者は確か4名で、小じまりと楽しい会話がはずんだと思います。今では30人近いゼミ加入者を毎年社会に送り出しています。そのためゼミ生の名前を覚えられなくて、わずかに幹事さんの名前を記憶しているにすぎません。それでも近年は経済環境が好転し、ゼミの卒業生が企業のパンフレットを持って大学を尋ねてきます。誰だったかなと思いつつ話すうちに、かすかに彼の大学時代のイメージが浮かんできます。大学は人材の宝庫です。OBの方々の来校を歓迎します。

追悼・後藤宏行先生

五、六年前のことですが、後藤先生から、「毎日新聞社に良源(平安時代の僧)の伝記を頼まれたから、資料集めを手伝ってくれないか」と言われました。——この伝記が「女人成仏への開眼」(毎日新聞社刊)という歴史小説です。

当時先生は常任理事の要職にありましたが、ご自分で資料を集める時間はほとんどないと言っている状態でした。資料についての責任はすべて私にまかせられてしまっただけです。資料集めを依頼されて私が最初にやったのは、文献目録を漁ることもなく、歴史を調べることもなく、まず先生が描こうとしている良源という人物に感情移入することでした。

資料を探すために、図書館以外にも、京都のお寺や神田の古書店を歩き回りました。すると不思議なことに、千年前の人物と現代の私たちがどこかで呼応しているように感じられるのです。偶然に入った神田の古書店で、どうしてもほしかった資料を手に入れることができました。それは、先生が仰ったように資料が向こうから手招きしてくれていたとしか言いようがありませんでした。

私は、資料を探す仕事を図書館ですしておりますが、このように何かに憑かれたように資料を探したのは、先生の仕事をはじめででした。「女人成仏への開眼」は、私に資料に対する眼も開かせてくれたのです。

名古屋学院大学附属図書館勤務
山内隆文(1980年卒)

クラブは今!!

1990年度前期活動報告

陸上競技部

- 第56回東海学生陸上競技対抗選手権大会
 - 400m 2位
 - 砲丸投げ 4位
 - 円盤投げ 5位
 - やり投げ 5位

団体6位(男子25校参加)

ゴルフ部

- 中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権競技大会
 - 個人 2位
- 中部学生ゴルフ春季学校リーグ戦
 - 団体 2部 優勝 一部昇格

卓球部

- 東海学生卓球新人大会
- 東海学生卓球春季リーグ戦一部 6位

ウエイトトレーニング部

- 全日本学生パワーリフティング選手権大会
 - 67.5kg級 準優勝
 - 82.5kg級 10位
- 中部学生パワーリフティング選手権大会
 - 67.5kg級 優勝
 - (ベンチプレス中部学生記録樹立)
 - 82.5kg級 3位
 - 56kg級 5位

バスケットボール部

- 第28回東海学生バスケットボール大会
 - ベスト8 進出

ヨット部

- 中部私立大学ヨット選手権大会
 - 470級 総合4位

空手道部

- 春季東海学生選手権大会
 - 個人 ベスト8位

剣道部

- 第37回東海学生剣道選手権大会
 - 個人 8位(全日本出場)
- 第38回全日本学生剣道選手権大会
 - 個人 16位
- 東海学生剣道新人戦大会 団体 3位

軟式野球部

- 春季東海学生軟式野球大学対抗リーグ戦大会
 - 1部 5位
- 愛知学生軟式野球大学対抗リーグ戦大会
 - 1部 5位

自動車部

- 全中部学生安全運転競技選手権大会
 - 男子 団体戦 総合3位
 - 女子 小型乗用の部 個人 5位
 - 普通乗用の部 個人 3位

バレー部

- 東海リーグ春季大会
 - 3部リーグ 優勝 2部昇格

少林寺拳法部

- 第26回東海学生少林寺拳法大会 4位

硬式野球部

- 春季リーグ戦 2部 優勝

OB短信

この人 この道

伝統に生きる

濱島正融(1980年卒)

有松絞りが誕生するのは今から400年前に遡る。藩の保護を受け、着実に発展し、京都の鹿の子絞りと並びわが国の二大絞りと呼ばれる様になり、日本の伝統工芸として指定を受けることになる。

濱島家の祖父は伝統工芸士の18人のうち1人に数えられ、正融さんも7代目として継業を継がれる道を選択されたのである。

彼は製造の傍ら、販売部門にも力を注がれ濱島工芸という会社を設立。東京はじめ各地へ出張され多忙な毎日を送られている。

八月のシーズン明けまで好きなゴルフも自重気味との事。

名古屋の貴重な伝統工芸の灯をOBの一人としていつまでも守り続けて頂きたい。

海に生きる

小林茂則(1983年卒)

名古屋から南へ200km、志摩半島の先端に、太平洋を眼下に大王崎灯台が白亜の姿で行んでいる。そんな環境の元で彼は高校時代ま

で過したのである。大学在学中は野球一筋に名捕手として活躍。卒業と同時に父親の後を継いで二代目として真珠の養殖に従事することになる。

彼の手掛ける真珠は年間8万個、そのうち市場へ出回るのは三分の一。主に中玉を装飾用に出荷されること。

今年の出来ばえは、天候不順が影響し、なかなか厳しい状況が予想され、冬場の出荷時期まで忙しく土、日曜もなかなか暇がとれず、根気と体力が勝負との事。

野球で培った精神力で今後も頑張って頂きたいものである。

で過したのである。大学在学中は野球一筋に名捕手として活躍。卒業と同時に父親の後を継いで二代目として真珠の養殖に従事することになる。

彼の手掛ける真珠は年間8万個、そのうち市場へ出回るのは三分の一。主に中玉を装飾用に出荷されること。

今年の出来ばえは、天候不順が影響し、なかなか厳しい状況が予想され、冬場の出荷時期まで忙しく土、日曜もなかなか暇がとれず、根気と体力が勝負との事。

野球で培った精神力で今後も頑張って頂きたいものである。

ネッド・ルイス氏来学、昔の仲間と旧交を温める!!

今夏アメリカから第一回交換留学生であったルイス氏が来日、当時のNGU同窓生たちと旧交を温めました。氏は本学で一年間留学した後、文部省の国費留学生として京都大学・大学院で学び、現在はアラスカ・アンカレッジ市で高校教師をしています(Bilingual Education)。

氏はこの20年来継続して日本語を勉強し、今では専門書もスラスラ日本語で読みます。皆さん、外国語学習はネバーギブアップ!

で過したのである。大学在学中は野球一筋に名捕手として活躍。卒業と同時に父親の後を継いで二代目として真珠の養殖に従事することになる。

彼の手掛ける真珠は年間8万個、そのうち市場へ出回るのは三分の一。主に中玉を装飾用に出荷されること。

今年の出来ばえは、天候不順が影響し、なかなか厳しい状況が予想され、冬場の出荷時期まで忙しく土、日曜もなかなか暇がとれず、根気と体力が勝負との事。

野球で培った精神力で今後も頑張って頂きたいものである。

—本学卒業生母校の教員となる!!

小松 照幸(1969年卒)

(1968年アラスカメソジスト大学への交換留学生)氏は15年間、日米教育委員会(日米両国政府によるフルブライト奨学金財団)でシニア・カウンセラーとして勤めたのち、1988年からNGU国際交流の専門担当教員(講師)として母校へもどりまし。

来学した留学生が学ぶ「留学生別科」の責任者です。「日本文化コース」の担当科目は「現代日本の社会問題」、英語で教えています。

で過したのである。大学在学中は野球一筋に名捕手として活躍。卒業と同時に父親の後を継いで二代目として真珠の養殖に従事することになる。

彼の手掛ける真珠は年間8万個、そのうち市場へ出回るのは三分の一。主に中玉を装飾用に出荷されること。

今年の出来ばえは、天候不順が影響し、なかなか厳しい状況が予想され、冬場の出荷時期まで忙しく土、日曜もなかなか暇がとれず、根気と体力が勝負との事。

野球で培った精神力で今後も頑張って頂きたいものである。

諸証明書の発行申込み方法

郵送の場合は氏名・生年月日・学部学科・卒業年度・送付先住所・記憶があれば学籍番号を明記のうえ発行手数料に郵送料を加算した料金(切手可)を同封して教務課へ申込みして下さい。

成績証明書 (和文) 3000円 (英文) 2000円

卒業証明書 (英文) 3000円 (和文) 2000円

その他についてはお問い合わせ下さい。

なお、教務課の窓口にお越しの場合は、英文の証明書を除き即時発行が出来ます。

☆お急ぎの方には、同窓会事務室にて発行申請の代行をいたしますのでお問い合わせ下さい。

林順一先生の思い出

大学4年になり、就職のシーズンを迎え

私は東京の会社訪問を計画しました。自分なりに考えた会社の本社に就職試験を受験させてもらえる様申し込みに行ったのです。この事をゼミ教授である林先生に相談したところ心よく自宅を宿舍として使用する様にと言われました。私は東京に知りあいなくとも不安でしたから大変助かりました。約一週間の間私を心よく迎えて下さった先生のご家族の方々ととりわけ奥様には食事から身の廻りまでとても良くしていただきました。私が現在の会社に就職できたのも林先生のアドバイスがあったからです。

林先生のおつきあいは卒業してからも毎年開かれるゼミOB会やゴルフ大会など楽しく有意義なものでした。昨年東京女子医大にお見舞した時は、お話はできませんでした。先生とは定年後もOB会などでご指導いただく約束をしていました。亡くなられた今再びお会いする願いは叶えられませんが、先生に教えられた事を忘れずこれからも一生懸命頑張ろうと思っております。先生の冥福を心からお祈りいたします。

凸版印刷株式会社 伊藤博義(1970年卒)

で過したのである。大学在学中は野球一筋に名捕手として活躍。卒業と同時に父親の後を継いで二代目として真珠の養殖に従事することになる。

彼の手掛ける真珠は年間8万個、そのうち市場へ出回るのは三分の一。主に中玉を装飾用に出荷されること。

今年の出来ばえは、天候不順が影響し、なかなか厳しい状況が予想され、冬場の出荷時期まで忙しく土、日曜もなかなか暇がとれず、根気と体力が勝負との事。

野球で培った精神力で今後も頑張って頂きたいものである。

物故者 (担当科目)	逝去年月日 (敬称略)
石井 猪熊(統計学)	1986.1.24
石川 元助(自然科学概論)	1981.12.13
太田 哲三(会計学)	1970.7.4
北川 一雄(国際経済論)	1983.9.16
小堀 勉(教育原理)	1980.11.13
小宮 孝(経済原論)	1975.11.16
後藤 宏行(社会学)	1989.1.27
島本 英夫(商法)	1972.12.3
勝呂 弘(保険論)	1985.5.28
高橋 真三(経済法)	1972.8.10
田中 金司(金融論)	1985.8.25
長沢 徹(化学)	1982.2.9
野村寅三郎(交通論)	1985.1.22
林 順一(会计学)	1989.9.7
久重福三郎(中国经济論)	1968.7.9
折川 正三(商学総論)	1986.12.3
福田敬太郎(商学総論)	1986.12.29
伏見 繁一(英語)	1986.12.31
穂積 文雄(社会政策論)	1979.11.26
本田 実(会計学)	1970.10.12
松下周太郎(財政学)	1985.2.8
三戸 雄一(英語)	1988.2.15
山崎 治夫(宗教学)	1986.4.7
山田憲太郎(東西交通史)	1988.2.13
鷺見 寿久(日本文学)	1981.6.25

